

- ・コラム「一冊の本の重さ」
- ・お知らせ(宿泊研修、おたか静流ライブ、県職員 NPO 研修)
- ・太陽と緑の会からの助成報告
- ・協力者名簿／編集後記

NPO法人 太陽と緑の会

かわら版

179号/2017 ▶ Since 1984

「一冊の本の重さ」

杉浦 良

「私たちの津久井やまゆり園事件」堀和利編著（社会評論社）と題する本が送られてきました（2016年7月26日早朝、神奈川県相模原市の障害者施設で同所の元職員によって46人が殺傷された事件）。その中で印象に残った文章がありました。

「相模原で30数年地域福祉をやっている者です。80年代に相模原には地域作業所しかなかった。通所施設は全くなかったです。・・・でも20数年前に津久井やまゆりが建て替えをした時は、あんなすてきな立派な施設に、いずれはあそこに入りたい。通所に通っている人たちは短期入所を希望してショートスティを利用しながら入所を待っている方もいました。でも親御さんたちはグループホームを作り続けてきました。・・・現在11か所で130



徳島県職員 NPO 研修 販売するカーテンの長さを測り、ショーカードに記入します。

人以上の方がグループホームで暮らしています。半分以上が区分5、6の方です。強度行動障害の方たちも暮らしています。・・・実際のところ重度の人は無理だと言われました。たしかに無理でした。お金もかかるし、建物を建てるのも大変なことでした。・・・

相模原で家賃補助を創設しました。横浜ほどはかないませんが、家賃補助が2～3万できるようになりました。何とか年金でぎりぎり暮らせるようにやっとなりました。グループホームを作るからと土地を貸してくれる地主さんはいなかったです。でも地域で暮らしていけば地域は変わります。・・・この地域を変えていくしかないんです。30年たって親はどんどん歳をとって、グループホームは足りません。本当に困っています。津久井やまゆりの方だけが重度ではありません。でも何とか地域で支えていこうと思っています。・・・反対運動もありました。でも地域の中で、生きていけば地域が変わります。やまゆりは建て替えてそこに入ったらもうおしまいですよ。出て生活するなんてありえません。そこで落ち着いてしまいます。このような事件があったから言うんです。地域を作り変えていかないと・・・(文章省略は杉浦)」

この言葉の重さに、なかなかページが進みません。本当に厳しい困難に直面すると、心が固くなり、問題の本質から目を背けたくくなります。心がくじけそうになり、少しでも楽な道を選びたくなるのを責めるほど自信はありません。介護の世界でも同じことが言えるでしょう。在宅介護が本人にとってベターでも、世話をされる方が日々日常の厳しい現実を前に、入所施設を選ぶことと重なります。ただ、今まで一生懸命働いてきた方が終末期をどうするか？といったイメージと、この本に書かれている状況とは、大きく隔たりがあります。

「・・・障害者は人間としてではなく、動物として生活を過ごしております。車イスに一生縛られている気の毒な利用者も多く存在し、保護者が絶縁状態にあることも珍しくありません。私の目標は重複障害の方が家庭での生活、および社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。重複障害者に対する命のあり方は未だに答えが見つかっていないところだと考えました。障害者は不幸を作ることしかできません。・・・(実行犯植松被告の手紙より抜粋)」

そう書かれた言葉に、またまた立ちすくむ私がありました。黒く垂れこめた暗雲に押し潰されそうになっていると、徳島市障害者地域共同作業所「フレンズ」という名前が浮かんできました。リフトキャブに重度重複障害のメンバーを乗せて、学校等で交流活動をする、本当にユニークな作業所でした。司会を務める作業所スタッフのトークの上手さと、全身を支える車椅子に乗って自分なりの意思表示をするメンバーとのコンビネーションが光りました。

「今まで一度も出会うことのなかっただろう人達と、メンバーとの交流体験活動が、このメンバーの作業です・・・」今は閉鎖となったフレンズ職員の言葉が、一条の光となって急に思い出されました。

お知らせ

宿泊研修 2017 in 香川

平成 29 年 10 月 3 日 (火) ~ 4 日 (水)、財団法人徳島県福祉基金より「地域活動支援センター等利用者の社会参加促進事業」として受けた助成金に自己資金を合わせ、様々なハンディを持ったメンバー、スタッフ、ボランティア、計 28 名が参加して、香川県に研修旅行に行きました。

初日はさぬきこどもの国に行きました。変わり種自転車に乗ったり、高松空港から離発着するジェット機やヘリコプターを見たり、待望の YS11(戦後我が国最初の国産旅客機で、平成 9 年度まで実際に使用されていた機体が展示)に乗り込んで操縦室に座ったり、琴平電鉄の車両 (60 形 62 号。平成 14 年度まで、京急、東急、琴電と 89 年間使用されていたもの)に乗ったりしました。

翌日、高松港から官有船まつかぜに乗ること 20 分、国立療養所大島青松園に到着。現在 58 人の方(平均年齢 83 才)が入所されているとのことでした。

20 才の時から 63 年間、療養所で生活をされている元患者の A さんから、1 時間に渡り、ご自身の体験談を聞かせていただきました。

「昭和 29 年、お尻に百円ほどの斑点ができて、病院で診てもらったらハンセン病だと判った。それから、家から離れてずっとここにいることになった・・・」

そう語る A さん。話を聞いていたメンバーの Y さんは、言葉に詰まりながら「自分も・・・小さい頃から・・・18 歳まで・・・病院にいた・・・これからも長生きして・・・頑張ってください！」と指先のない手をしっかり握りしめて、握手をしました。

「有り難うよ！」大きな声で応えた A さんが、車椅子を職員に押されながら、部屋を出て行かれました。

次に元患者であった、詩人塔和子さんのドキュメンタリーを見た後、納骨堂 (2143 名の方が入られているとのこと) や風の舞、石の解剖台も案内していただき、帰路につきました。



海岸に遺棄されていた石の解剖台。亡くなられた患者さんの解剖に使用されていたとのこと。

第8回おおたか静流 チャリティライブ

10月24日午後7時、徳島市般若院本堂に約140名の皆様が集まり、おおたか静流チャリティライブが開催。

第1回目から演奏して下さっているギタリストのkeijuさんは島根から駆けつけて下さいました。昨年が続いての参加となるAsuさんとのデュエットもあり、約2時間に渡るバリエーション豊かなライブとなりました。



第8回チャリティー義援金として17万円、おおたか静流さん提供CD売上3万1600円、総額20万1600円を、宮城県ありのまま舎に東日本大震災義援金として送金しました。

チャリティは8回のライブで総額160万4997円となりました。

ライブの合間に、支援の報告を杉浦の方からさせて頂きました。ありのまま舎による、沿岸部の在宅障がい者の方のための相談支援センター(2か所)も設置されて4年、それぞれ軌道に乗ってきました。関係者の皆様をはじめ、ライブを聴きに来て下さった方々にも、改めてお礼申し上げたいと思います。

また今回ボランティアの小林さんが、受付や小さなお子さんのサポートなどでフォローして下さいました。少ないスタッフで会場運営を担っている中、大変助かりました。ありがとうございました。

※これ以外に、東日本大震災支援として、太陽と緑の会独自で、ありのまま舎に206万6721円、日赤に18万8780円を支援させて頂いています。



県職員 NPO 短期研修

10月16日、17日の2日間、太陽と緑の会リサイクル作業所にて、9名の徳島県職員の皆様が「NPO法人短期体験研修」に参加して下さいました。

いつもは「おしゃべり中心で手が動いていない」と他のメンバーから手厳しい評価を受けているCさんも、今日は研修生の皆さんに囲まれて、作業の手も進んでいます。「いろいろ声をかけてくれてうれしかった」と、人当たりがよくて聞き上手のCさんに対する研修生さんの評価は二重丸です。そんなCさんを見て、「あいつはおしゃべりばかりで、ひとつも仕事しておらん」とちょっぴりジエラシーを感じているDさんです。

様々なハンディを持ったメンバーと一緒に作業を体験することで、書類だけでは見えにくい部分を肌で感じて頂けること。またメンバーにとっては、日頃自分たちが取り組んでいる作業をやって見せて説明して、という非日常的な経験ができること。こうした機会を頂けることは本当に有難いことです。

この研修も今年で7回目、総勢46人の県職員の方が参加して下さいました。継続することの意味を改めて思います。



太陽と緑の会からの支援(第47回)

徳島市資源ごみ回収事業に係る奨励金
(古紙1キロに対し5円、鉄屑、空き缶1
キロに対し6円、ウエス1キロに対し10
円、廃食油1キロに対して20円)平成28
年度前期分(平成28年後期配分)27万7500
円が、太陽と緑の会福祉事業団に支給され
ました。

これを各分野で非営利活動に取り組ん
でおられる以下の団体の皆様に配分させ
て頂くことに致しました。(敬称略)

①障害者福祉活動への助成

社会福祉法人くまもと障害者労働センタ
ー(熊本大地震支援として)5万円
共同連(差別とたたかう共同体全国連合)
(社会的事業所の法制化に向けた取り組
みなど)6000円

NPO法人オーティの会(発達障がいのある
方や家族が一貫して学べる場づくり)
4000円(ハートフルゆめ基金とくしま)

②社会福祉活動への助成

徳島いのちの希望(社会福祉法人徳島県自
殺予防協会)(電話による相談活動)
5000円

大阪釜ヶ崎喜望の家(野宿を余儀なくされ
た高齢日雇労働者の支援活動)5000円

NPO法人 聴覚・ろう重複障害者生活支
援センター(地域活動支援センターの運営
など)(徳島市)5000円

徳島市社会福祉協議会 5000円

③国際協力活動への助成

パシワール会(アフガニスタン等での医
療事業、水源確保事業、農業計画)1万円
認定NPO法人日本チェルノブイリ連帯

基金(チェルノブイリ原子力発電所事故
被災者への医療支援)5000円
公益財団法人徳島県国際交流協会1万円

④環境保全活動への助成

NPO法人 新町川を守る会(川を守り、
水を活かしたまちづくり)3000円

⑤その他の活動への助成

「ハートフルゆめ基金とくしま」を育成
する基金 7000円

生活困窮世帯のファミリーサポートセン
ター利用を支援する子育て基金 7000円
NPO法人子育て支援ネットワークとく
しま(徳島県産材を用いた木育用の木の
おもちゃの開発)2000円

(以上、ハートフルゆめ基金とくしま)

NPO法人 徳島県ボランティア協議会
(ボランティア活動の普及を推進する活
動)5000円

⑥災害支援

社会福祉法人ありのまま舎(宮城県仙台
市)(東日本大震災により被災された宮城
県沿岸部の在宅重度難病者支援活動に
対して)14万7290円

支援金振込手数料 1210円

太陽と緑の会福祉事業団の助成活動は平
成5年度よりスタートしました。各分野
で非営利活動に取り組んでおられる個
人・団体の皆様を対象に年2回、23年間
で累計1458万5876円の助成を行ってき
ました。

Facebook より

いつも品物のお持ち込みやお買い物に来て下さっているTさんから、今年もたくさんのミカンを頂きました。

今日はブラジルやベトナムからのお客様が朝から大勢お越しになっています。

「日本は物の値段が高くて大変です」といったお話も伺いながら、200点以上の50円商品をはじめ、電化製品、小型の家具類などもお買い上げになりました。

食器を新聞紙で包んだり、お一人お一人に品物を確認したり、様々なハンディを持ったメンバーと海外からのお客様のコラボは、太陽と緑の会ならではの光景でした。

少し落ち着いた頃を見計らって、Tさんから頂いたミカンをメンバー1人1人に配りました。

「仕事した後のミカンはおいしい！」

Tさんに感謝です！（10月1日付）

定休日及び冬期休業

水曜日、第2第4火曜日、及び祝日を定休日とさせて頂いております。

また12月14日(木)より開店時間を10時～18時とさせて頂きます。皆様にはご不便をおかけすることになるかと思いますが、よろしくお願い致します。

12月12日(火) 13日(水) 20日(水)
12月26日(火)大掃除のため店舗休み
12月27日(水)
12月28日(木)～1月2日(火)冬期休業
1月3日(水)
1月8日(月・祝日) 9日(火)10日(水)
17日(水)23日(火)24日(水) 31日(水)
2月6日(火・臨時休業) 7日(水)
2月12日(月・祝日)13日(火)14日(水)



当会の活動をご支援下さった皆様

§ 2017年9月23日～2017年11月20日 § (紙面の都合上、敬称は略させていただきます)

ご寄付を下された皆様

橋本、久次米、前川、般若院募金箱(郵便振替口座)中村

品物を持って来て下さった皆様(郵送含む)

○徳島市○井原、藤木、高志、秋月、紀伊、川崎、前田、塩田、幸田、吉田、廣澤、兼子、佐藤、正木、宮田、四宮、平岡、石井、板東、佐々木、前川、野中、村賀、豊田、矢野、増田、榎本、酒井、瓶子、松本、つかやま、川人、川下、長尾、長船、今枝、黒田、川上、湯浅、杉本、楠本、坂本、イハラ、井上、小森、原田、宮本、梅津、中川、広永、津田、福田、西内、永正、蒲原、北村、井坂、中村、川島、本田、徳島県環境技術センター、松村、高橋、和田、蓑手、植松、岩崎、坪内、四方、久米、山田、清水、黒田、布袋、シオタ、二宮、元木、中野、岡本、板東、伊勢、鈴木、北尾、吉川、河崎、坂東、大西、武岡、東、桜井、松本、立石、加賀美、岩見、山松、原田、小川、中谷、蓑手、山口、大橋、佐々木、洙田、湯浅、高瀬、石山、寒川、ミノウ、福家、加島、杉浦、桝村、中井、友行、山本、田中、五島、渡辺、多田、新居、朴、原、日浦、永野、神下、伊藤、平賀、中内、遠藤、石本、若宮、西野、岩佐、加美、池添○石井町○阿部、遠藤、高橋、民、野田、堀江、野村、早瀬、石井、矢野、河野○藍住町○森、山本、西川、三浦、中村、里見、宮本、岡本、井上、河野、梶本○神山町○カワノ○阿南市○古川、原○鳴門市○堀井、佐野、益岡、兼子、廣田、奈良、吉田、森、益田○三好市○大倉○板野町○信田、福井○小松島市○玉井、菅我部○上板町○田中○牟岐町○中井○吉野川市○猪上、松岡、奥村、藤井、福田、平島、濱崎○阿波市○武田、堀尾、国峰、大道○美馬市○戸島、広川、長江○神奈川県○高坂○福岡県○永峰○岡山県○高橋○東京都○小林○埼玉県○本田○大坂府○真柄○愛媛県○渡部○静岡県○中村○群馬県○山本

品物を引き取りにお伺いさせて頂いた皆様

○徳島市○橋本、山下、川人、森田、坂東、川城、井川、山根、木村、猪俣、太陽堂薬局、増田、横山、安藝、新居、杉本、井形、薬師神、北野、松下、寺西、矢三、横田、加藤、内田、白木、中沢、濱口、林、岡久、藤田、きとう、江島、近藤、竹田、中島、ワンフォー ジン、日下、眞家、高橋、メリケンヤ紳士服長尾、篠原、吉岡、宮崎、田中、横瀬、田村、酒井、竹原、亀谷、原、伊勢、藤井、宮越、長野、村井、廣峰、岩佐木村、楮佐古、富島、藤田、土肥、松田、小梯、吉内、岡本、島、鐘田、大前税理士事務所、秋田、篠原、高野、宮本、岸、川崎、三宅、川上、小倉、高木、前川、檜、増田、貝出、エビスダニ、野口、中山、山田、いしづえ、川野、岡田、立川、池田、山本、田中、宇治製菓、住友、篠原、西川、よここう、佐藤、佐野、蓬菜、森、梅本、小林、福井、横山、渡辺、山下、竹田、松原法律事務所、蟻井、小川、杉野、理容こまどり、大島、田口、青木、美野、花畑、伊藤、宮脇、森、市川、小林、鎌田、阿部、森耳鼻咽喉科、金品、相川、勝瀬、戎、横尾、東條、折原、原田、楠根、河野、田村○小松島市○森

いつも当会の活動にご支援ご協力頂き、ありがとうございます。

品物を持って来て下さった皆様の中には、「何回も来て、書いているので」「名前は結構ですから」と、お名前を書かずに帰られた方も多数おられ、実際は上記の3倍以上の皆様からご協力を頂いております。

また自家製天然酵母パンや鹿肉を差し入れて下さった柴田様、未使用の切手や葉書を送って下さったN様、M様、お野菜、レギュラーコーヒーなどを差し入れて下さった皆様、メッセージを添えてお品物を郵送して下さった皆様、その他の皆様にもこの場を借りてお礼申し上げます。頂いた品物は大切に活用させていただきます。リユース・リサイクル可能なものがございましたら、ぜひお電話下さい。

※本誌へのお名前の掲載を希望されない場合は「匿名希望」と記入して頂ければ幸いです。

前田様
毎夜でもお茶の淹れ物を作ります。
冬物に関する情報は、一部宛先に送ってある物
もありです。律型で合わせて取り寄せて下さり下さり
思いつくお品物も多く処分するに悩んでおりました
ご下り物です。失礼は思いません(心)最後で
着念にいただけばと思いついて下さり下さり
お手紙がけ下さり。お礼の物で下さり処分して下さい。
温暖な地はいいね。向寒の折柄、皆さま
共々もご自愛下さい。

編集後記～「福祉らしくない福祉」

「民間企業の厳しさに比べたら、太陽と緑の会はあたたかい」

大企業の第一線で30年以上活躍され、定年退職後、シニアのパート職員として勤務されていた方が言われていたことです。

かつては終身雇用を前提に社員をじっくり育ててくれた民間企業も、グローバル化や新自由主義の荒波の中で即戦力の社員を求める傾向が強くなってきています。すぐに仕事を覚え、結果を出せるようであれば生き残れません。

様々なハンディを持ったメンバーは、作業スタイルも一人一人異なります。得意なこともあれば苦手なこともあります。精一杯努力してもできないことはあります。自分のペースでゆっくりと値札をつけていく人もいれば、レジ兼受付を担当し一般就労に近い仕事を安定してやれる人もいます。その人なりに立っていくことを考え、どちらのあり方も認めていきます。

「作業ができないからダメ」ではなく、できることは自分で担い、できないことはできる人に助けてもらいます。

その代わり賃金も一人一人異なります。仕事の内容によって、時給は100円から740円(徳島の最低賃金)まで幅広いです。作業と賃金をある程度リンクさせるのが今の日本経済の原則であり、そこから乖離した「特別な場所(コートピア)」は持続可能とは言い難いからです。

専任職員も例外ではありません。職員だからという理由だけで、ハンディを持ったメンバーより高い給料が保証されるとなると、太陽と緑の会のメンバーは納得しません。「共に働くとか言うて、嘘やないか。職員だけ守られとるやないか」と手厳しい声が上がります。

「民間企業は厳しいから自信がないけれど、ここだったら優しくしてくれるのでは」と思って職員になった方は、驚かれるかもしれません。

年末にかけて たくさん売れるといいですね。

寒さの中、お体にお気を付けて下さい。

茶のケニッフは、今の時代 オールシーズン向きだと思います。エスニッフのメーカーのものです。

前略

新しいものではありませんが、 殆んど着用していないものです。もし、何か役に立てていただければ幸いです(バックも) よろしくお願ひ致します。

前回実家の片づけの時には、たいへんお世話になりました。ありがとうございます。

今回は、自宅の片づけをしています。不要品が少しありますが、ありますので、御多忙中とは思いますが、引き取りに来ていただければ幸いです。よろしくお願ひします。

専任職員の給料の8割以上はリユース品の売上から捻出しており、支援・指導という仕事だけでは成り立ちません。メンバーを前面に出して後押ししながら、いかに売上にも貢献していくか、という複合的な試され方をします。売上で結果を出しても、メンバーが雑用中心の脇役では意味がありません。それは民間企業の領域で行うべきことです。

現在一般就労に近い作業を担ってくれているメンバーも最初からそうだったわけではありません。Aさんは22年前に太陽と緑の会へ来た頃、職員が今よりずっと手厚くフォローしなければ安定して作業を持続することができませんでした。今年で13年目のBさんは最初の5年間、緊張で声がなかなか出せず、自分から応援を呼ぶことができませんでした。

10年、20年といった長いスパンで考え、関わっていく中で人が育っていく喜び。専任職員の仕事は長く続けることで力を発揮できる可能性がある、あるいは、それまでの人生経験が活かせる可能性がある、とも言えます。

即戦力として活躍できる方はもちろん大歓迎です。しかしそうでない方であっても、いろいろなメンバーと気長にお付き合いしていくことができるのであれば歓迎します。

「あたたかい」と言えるかどうかは分かりませんが、民間企業や通常の福祉事業所とはちょっと違う雰囲気のあることは確かです。

回収担当職員の退職と値段付け担当職員の産休が重なり、回収エリアや活動時間の変更など、運営体制の再構築が迫られた一年でした。「人も物も活かされる街づくり」の取り組みも34年目に入りましたが、相変わらずバタバタとしております。

個別給付制度を利用し、公的資金中心の運営に舵を切れれば、今より運営的に安定するのは確かですが、「メンバーが来てくれることで職員の給料が保証されるようになって、メンバーとの関係は変わらない」と断言できるだけの自信はありません。

あえてイバラの道を歩み続けるのが本当に良いことなのか、誰のための活動なのか、メンバー1人1人の姿を道しるべに考えていきたいと思います。

本誌をもちまして新年のご挨拶に代えさせていただきます。新年もよろしくお願い致します。(文責:小山)

NPO法人 太陽と緑の会

私たちは、「人も物も活かされる街造り」をテーマに、ハンディーのあるなしに関わらず「地域の中でその人がその人の足で立っていること」を目指し、様々な方々(市民、ボランティア、行政)の支援を頂きながら土、日を含めた日常活動を行っています。

これは、日本の次世代型ソーシャルアクションモデルになると考えています。このような活動のあり方により、徳島の将来や日本の未来が、幸多く、豊かであることを願っております。

発行:NPO法人 太陽と緑の会

〒779-3120 徳島市国府町南岩延 107-1

TEL・FAX 088-642-1054

(地域活動支援センター太陽と緑の会リサイクル作業所)

代表理事 杉浦良 編集 小山 隆太郎

協力者名簿作成担当メンバー 岡田

ゆうメール押印・宛名シール添付担当メンバー 堀

製本・発送作業担当メンバー 岡田 福住 宇津

年会費：正会員1万円(総会議決権・事業決算報告)

準会員1,000円(機関誌発送)

郵便振替口座：01620-8-44703

加入者名：特定非営利活動法人太陽と緑の会